

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策1  
県民の総力を結集できる行政の推進

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

広報室長 平野英夫

電話番号

22-5769

事務事業の名称	県政情報提供事業	
目的	(1) 対象	県民
	(2) 意図	テレビ・ラジオ・広報誌・ホームページなどを媒体として県政情報をリアルタイムにわかりやすく伝えることにより、県民の県政への関心を向上させる
事業概要	県政の主要施策や県内の状況などを伝えるために、広報誌「フォトしまね」の発行、新聞広報「考える県政」・「県民だより」の掲出、テレビ広報「なるほど！吉田くんのしまねゼミ」・「情報カフェしまね」・「テレビスポットCM」・「特別番組」の放送、またラジオやインターネットを通じた広報を行う。	

## 2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 県政世論調査における県の広報に対する満足度の割合	目標値		60.0	60.0	60.0	60.0	%
	式・定義 県政世論調査において、「満足している」「どちらかという満足している」と答えた人の割合	取組目標値						
		実績値	52.8	55.9	50.4			
		達成率	-	93.2	84.0	-	-	%
2	指標名	目標値						%
	式・定義	取組目標値						
		実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

## 3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	210,382	212,121
うち一般財源 (千円)	208,222	209,961

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

H29広報活動に対する県民の満足度は、「満足している」割合が50.4%であった。圏域別に前年度と比較すると、益田（+0.8%）圏域で向上した一方、松江（-7.6%）、雲南（-6.4%）、出雲（-4.2%）、大田（-5.4%）、隠岐（-11.2%）の5圏域で下降した。年齢階層別では、30代（+0.3%）、70代以上（+0.4%）で向上した一方、20代（-1.6%）、40代（-12.8%）、50代（-2.5%）、60代（-14.2%）で下降した。県の施策などの情報の入手先としては、報道（67.5%）に次いで広報誌「フォトしまね」（48.1%）が高く、県の広報活動に「満足している」者がフォトしまねから情報を得ている割合（60.4%）であった。

## 6. 成果があったこと（改善されたこと）

県の広報活動に「満足している」と回答した者は、「満足していない」と回答した者に比べて、県の広報媒体を情報源としている割合が高い。

- 満足していると回答した者のうち
  - 60.4%がフォトしまねを情報源と回答
  - 32.3%が県の新聞広報を情報源と回答
  - 16.8%が県政テレビ番組を情報源と回答
  - 7.1%がお知らせラジオを情報源と回答
- 満足していないと回答した者のうち
  - 47.3%がフォトしまねを情報源と回答
  - 18.8%が県の新聞広報を情報源と回答
  - 10.2%が県政テレビ番組を情報源と回答
  - 5.3%がお知らせラジオを情報源と回答

このことから、県の広報媒体を見聞きした場合には、一定の満足を与えているものと思量。

## 7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
 

県の広報を「見たこと、聞いたことがないのでわからない」という回答が増加した。（+4.2%）特に20代（33.3%）、30代（28.9%）で割合が高い。（全世代では14.2%）
- ②困っている状況が発生している「原因」
 

若年層に県の広報媒体が認識されていないのは、ニーズに合った情報の不足や、若年層が多く利用する媒体での発信が弱いことが理由として考えられる。
- ③原因を解消するための「課題」
 

若年層にアプローチする広報の実施

## 8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

従来の媒体での広報内容をさらに工夫するとともに、SNSなどの活用を進め、若年層を意識した広報に取り組む。高齢者には、紙媒体やテレビでの情報の提供が有効と思われるため、引き続き発行部数や放送時間の確保を行う。